〔文化財伝承等の取組事例〕

「川床中学校の鐘（鉦）踊り伝承活動の取組」

１．学校名	長島町立川床中学校
２．学年・人数	１年生　14 人
３．日時・場所	⑴　練習の日時・場所 令和６年６月～９月　　総合的な学習の時間（15 時間・本校体育館） 令和６年９月 10 日（火）着付け教室・保護者へ披露（本校体育館） ⑵　発表の日時・場所 令和６年９月 15 日（日）体育大会（本校グラウンド）
４．伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事，伝統工芸品について	⑴　名称 鐘（鉦）踊り（かねおどり） ⑵　由来 1565 年，野田領主の島津忠兼が城川内の堂崎城主天草越前正を攻め滅ぼし島津領としたが，同年７月に忠兼は甥の出水領主島津義虎に出水城で謀殺された。その後，長島全土に悪疫が流行，島民は忠兼のたたりとしてその霊を慰め，亡くなった人々の魂を鎮めるために，踊りを奉納するようになった。 ⑶　構成等 ２種類の鐘（平・入），太鼓を鳴らしながら，さまざまな隊形を組みながら動いていく。途中，歌いがはいる。地域に伝承されている歌いを短くし，歌詞の内容も教育的に配慮されたものになっている。
５．文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	⑴　地域・保存会との連携 平成２年から伝承活動を行い，現在 35 年目である。練習から地域に住む保存会の方に学校に来ていただいて，子供たちに手ほどきしていただいている。また，発表の前に衣装の着付け教室を保護者にも参加してもらい実施している。 ⑵　工夫した点 ア　保存会の代表が来校し，由来・譜読み・楽器の奏法を指導していただく。 イ　本来口承で伝えられているが，中学生が理解しやすいよう独自の楽譜を保存会が作成して指導していただいている。 ウ　独特な装束の着付けを保護者にも協力していただき，体育大会当日の着付けにつなげている。
６．取組の様子（練習状況，発表の場等）	 着付け教室 体育大会での披露
７．感想・意見 （参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	【１年生生徒】 地域の伝統芸能をつないでいくよさを実感した。教えていただいた地域の方に感謝している。 【教職員】 若者が多かった時代は子供は見ているだけで，鐘や太鼓に触れることも難しかった。見て覚える機会もなく，体力的にも厳しい今の生徒にとっては大変な苦労と努力である。一生懸命練習し，発表した後の顔は達成感と充実感にあふれ輝いていた。この伝統をいつまでも続けてほしい。 【地域の方から】 毎年，鐘や太鼓の音が聞こえると「この季節がやってきたんだなあ」と感じる。いつも楽しみにしている。